

# デッチ上げ「歴然!!」4・7暴力事件

## 『4・7暴力事件』デッチ上げ弾劾の5

### 中江の大勝利で反撃に起つて

労働革マル・松崎と土屋幹の「暴力事件」デッチ上げをもって、権力・当局・動労革マル一体となった動労千葉破壊の策動が強められている。これは、分割・民営化攻撃に対し、あくまで労働組合の原則を守って唯一闘いぬく動労千葉をつぶそうとする悪辣きわまりない攻撃である。全組合員の総決起による中江選挙闘争の勝利で、敵の狙いを粉々に粉砕してやるのではないか。

#### ますます鮮明となったデッチ上げ

すでに明らかにしたとおり、動労革マル・松崎と土屋幹は「暴力事件」をデッチ上げ、二名の仲間を告訴し権力に逮捕を要請すると同時に、本社に泣きつき、「関係者」の嚴重処分＝首切りと幕張電車区の廃止を要求した。

われわれはこの間、「暴力事件」なるものが完全にデッチ上げであることを、具体的事実をあげて暴露してきた。

すなわち、四月七日に「暴力をふるわれた」とする土屋幹が翌日の八日、銚子運転区でシャベルを持ち、一輪車を押し、持ち上げる等の肉体労働環境整備に精を出しながら、九日になって椎名病院へ行き、二年前と全く同じ「椎間板性腰痛症」なる持病の診断書をとったという動かしがたい事実である。

そして、「動労千葉憎し」で共通の立場にある権力・当局は、動労革マルのタレこみに飛びついた。

権力は、土屋や現場管理者の事情聴取をし、四月十六日には土屋や革マル弁護士ともども幕張電車区での「現場検証」を行い、不当逮捕のための演出を行った。さらに、動労革マルの意をうけた当局も十三日以降、職場に大量の職制を常駐させ、動労千葉組合員にたび重なる「事情聴取」を行い、「暴力事件」を認めさせようとしてきた。

#### 弾圧を粉砕して闘いぬく

しかし、権力・当局・動労革マルが一体となつて「暴力事件」をデッチ上げようと画策しようとして、「暴力」がウソである以上、彼等が期待する「証言」がないのは当然である。

こうした事態にあせつた当局は、「職場秩序を乱したことは事実だから、なんとか始末書を書いてくれないか」とお願いする始末である。

ここに「事件」のデッチ上げ性が如実に示されているのではないか。

#### 権力・当局に弾圧を要請する動労革マル

動労革マルは「暴力」がなかったことを百も承知のうえで、「どうせつくウソなら、大きければ大きいほどよい」とばかりに仰々しく記者会見を行い、マスコミを利用して「暴力事件」のキャンペーンをはり、権力・当局の弾圧に口実を与える策謀をこらしたのだ。

**この選挙で、中江の土屋幹を、推薦候補の全組合員をかりとれ**

組織内候補	中江昌夫	(船橋市議)	推薦候補	戸張さと	(習志野市議)
重点候補	北原鉉治	(成田市議)	"	片野政昭	(佐原市議)
推薦候補	小川義人	(千葉市議)	"	前田道子	(木更津市議)
"	辻田実	(館山市議)	"	荒井正	(大原町議)
"	"	"	"	井上千昭	(小見川町議)